

4. 飼料作物の施肥

1. イタリアンライグラス	46
2. エンバク	46
3. 飼料用イネ（稲発酵粗飼料用）	47
4. 飼料用トウモロコシ	48
5. ソルガム	49
6. 夏作牧草	49
7. 多年草牧草	50

4 飼料作物の施肥

1. イタリアンライグラス [〔目次に戻る〕](#)

- 1) 品 種 (極早生種) ワセフドウ
(早生種) ワセユタカ、タチワセ、いなずま、ゼロワン
(中生種) タチムシャ、
(晩生種) マンモスイタリアンB、ジャイアント、エース、テティラ
- 2) 目標収量 2回刈り 6,500kg
- 3) 施 肥 量

(10 a)

栽 培 型	総 量			元 肥				追 肥
	堆 肥 等 (成分)		化学肥料等 (成分)	牛 糞 堆 肥 等		化学肥料等 (成分)		1 番刈後 (成分)
				(散布量)	(有効成分量)			
水 田 裏 作 貯 蔵 型	窒 素	5.1kg	14kg	3,000kg	(窒素 5.1kg)	窒 素	9kg	5kg
	リン酸	8.4kg	1kg		(リン酸 8.4kg)	リン酸	1kg	0kg
	カ リ	14.4kg	0kg		(カリ 14.4kg)	カ リ	0kg	0kg
畑 (転換田) 作 貯 蔵 用	窒 素	5.1kg	14kg	3,000kg	(窒素 5.1kg)	窒 素	9kg	5kg
	リン酸	8.4kg	1kg		(リン酸 8.4kg)	リン酸	1kg	0kg
	カ リ	14.4kg	0kg		(カリ 14.4kg)	カ リ	0kg	0kg

※ 牛糞堆肥の有効成分量を窒素 1.7kg/t、リン酸 2.8kg/t、カリ 4.8kg/t と仮定した場合。

注) 播種量 3 kg/10a

4) 施肥設計上の要点

- 施肥前の土壌診断に基づいて施肥設計を行うことが望ましい。
- 土壌 pH 6.5 以下では土壌改良材（石灰類）で矯正する。
- 水稻立毛播種の場合の元肥は、稲刈り 1 週間後に施用してもよい。
- 多回刈りを行う場合、刈取毎に追肥を行う。
- 追肥は、硝酸塩・カリ蓄積を勘案して、生育状況・葉色を見ながら施用する。
- 家畜尿には 1 t 中に牛尿で 4～6 kg、豚尿では 2～4 kg 程度のアンモニア態窒素が含まれる。追肥として家畜尿を利用する場合は、施用量が少なくなるため、5 倍程度に希釈して施用すると良い。
- イタリアンライグラス後作の水稻作では、元肥の施肥に留意する。

2. エンバク [〔目次に戻る〕](#)

- 1) 品 種 スーパーハヤテ「隼」
- 2) 目標収量 4,000kg

3) 施 肥 量

(10 a)

栽 培 型	総 量			元 肥					追 肥 (成分)
	堆 肥 等 (成分)		化学肥料等 (成分)	牛 糞 堆 肥 等		化学肥料等 (成分)			
				(散布量)	(有効成分量)				
サ イ レー ジ用	窒 素	5.1kg	6kg	3,000kg	(窒 素 5.1kg)	窒 素	4kg	2kg	
	リン酸	8.4kg	0kg		(リ ン 酸 8.4kg)	リン酸	0kg	0kg	
	カ リ	14.4kg	0kg		(カ リ 14.4kg)	カ リ	0kg	0kg	

※牛糞堆肥の有効成分量を窒素 1.7kg/t、リン酸 2.8kg/t、カリ 4.8kg/t と仮定した場合。

注 1) 播種量：8月下旬（条間 70cm の条播 7 kg、散播 8 kg）、11 月中旬（5 kg、6 kg）

注 2) イタリアンライグラスと混播する場合は、イタリアンライグラスの施肥量による。

4) 施肥設計上の要点

- (1) 施肥前の土壌診断に基づいて施肥設計を行うことが望ましい。
- (2) 土壌 pH 6.5 以下では土壌改良材（石灰類）で矯正する。
- (3) 硝酸態窒素蓄積がおこりやすい作物であるので、窒素施肥に留意する。
- (4) 追肥は、晩夏播きで播種後 20 日頃、秋播きで 30 日前後に施用する。
- (5) 収穫期は、8 月下旬播きで 12 月中～下旬、11 月中旬播きで 6 月上～中旬である。
- (6) 家畜尿には 1 t 中に牛尿で 4～6 kg、豚尿では 2～4 kg 程度のアンモニア態窒素が含まれる。追肥として家畜尿を利用する場合は、施用量が少なくなるため、5 倍程度に希釈して施用すると良い。

3. 飼料用イネ（稲発酵粗飼料用）[\[目次に戻る\]](#)

- 1) 品 種 モグモグあおば、タチアオバ、たちすずか、たちあやか等
(主食用品種も流用可)

- 2) 目標収量 3,000kg

3) 施 肥 量

(10 a)

栽 培 型	総 量			元 肥					追 肥 (成分)
	堆 肥 等 (成分)		化学肥料等 (成分)	牛 糞 堆 肥 等		化学肥料等 (成分)			
				(散布量)	(有効成分量)				
サ イ レー ジ用	窒 素	5.1kg	8～13kg	3,000kg	(窒素5.1kg)	窒 素	6～10kg	2～3kg	
	リン酸	8.4kg	0kg		(リン酸8.4kg)	リン酸	0kg	0kg	
	カ リ	14.4kg	0kg		(カリ14.4kg)	カ リ	0kg	0kg	

※ 牛糞堆肥の有効成分量を窒素 1.7kg/t、リン酸 2.8kg/t、カリ 4.8kg/t と仮定した場合。

注 1) 播種量 直播 4～5 kg/10 a 移植 4 kg/10 a

注 2) 水管理 乾田直播栽培 葉令 3～4 葉期（播種後 1 ヶ月）に入水

湛水直播栽培 播種後出芽まで落水状態とし、苗立ちを安定させる。

4) 施肥設計上の要点

- (1) 施肥前の土壌診断に基づいて施肥設計を行うことが望ましい。
- (2) 土壌 pH 6.5 以下では土壌改良材（石灰類）で矯正する。
- (3) 乾田直播にあっては、鳥害を避け、苗立ちを安定させるため、播種深度を 1～3 cm に保ち、播種後は鎮圧を実施する。
- (4) 収穫については、出穂後 10～40 日の糊熟期～黄熟期とし、機械対応を考え、早めに落水する。
- (5) 刈り遅れると脱粒しやすくなる品種もあるため、当該品種については早期（糊熟期）の収穫を行い脱粒を極力回避する。
- (6) 飼料用米には適用しない。

4. 飼料用トウモロコシ [\[目次に戻る\]](#)

- 1) 品 種 （早播き用）ゆめそだち
- 2) 目標収量 6,000kg
- 3) 施 肥 量

(10 a)

栽 培 型	総 量			元 肥				追 肥
	堆 肥 等 (成分)		化学肥料等 (成分)	牛 糞 堆 肥 等		化学肥料等 (成分)		幼穂形成期 (成分)
				(散布量)	(有効成分量)			
サ イ レー ジ用	窒 素	5.1kg	9kg	3,000kg	(窒素 5.1kg)	窒 素	6kg	3kg
	リン酸	8.4kg	0kg		(リン酸 8.4kg)	リン酸	0kg	0kg
	カ リ	14.4kg	0kg		(カリ 14.4kg)	カ リ	0kg	0kg

※ 牛糞堆肥の有効成分量を窒素 1.7kg/t、リン酸 2.8kg/t、カリ 4.8kg/t と仮定した場合。

注) 条間 70～80cm 点播の場合とする。

4) 施肥設計上の要点

- (1) 施肥前の土壌診断に基づいて施肥設計を行うことが望ましい。
- (2) 土壌 pH 6.5 以下では土壌改良材（石灰類）で矯正する。
- (3) 湿害に弱いので、排水対策に留意する。
- (4) 10～20%の範囲で、土地の肥沃度に応じて窒素およびカリを加減する。
- (5) 追肥は主幹葉数の 1/2（8～10 葉期頃）の幼穂形成期に施し、後半窒素不足にならないように留意する。
- (6) 家畜尿には 1 t 中に牛尿で 4～6 kg、豚尿では 2～4 kg 程度のアンモニア態窒素が含まれる。家畜尿を追肥として利用する場合は、施用量が少なくなるため、5 倍程度に希釈して施用すると良い。

5. ソルガム [\[目次に戻る\]](#)

1) 品 種：ソルゴー

(乾草用、青刈り用)

ヘイスーダン、ドライスーダン、シュガースリム、リッチスーダン、
タキイのハイブリッドソルゴー、元気ソルゴー

2) 目標収量 2 回刈り 8,000kg

3) 施肥量

(10a)

栽培型	総 量			元 肥				追肥1	追肥2
	堆 肥 等		化学肥料等 (成分)	牛 糞 堆 肥 等		化学肥料等 (成分)		10葉期 (成分)	刈取後 (成分)
	(成分)			(散布量)	(有効成分量)				
サ イ レージ用 青刈り用	窒 素	5.1kg	13kg	3,000kg	(窒 素 5.1kg)	窒 素	5kg	3kg	5kg
	リン酸	8.4kg	3kg		(リ ン 酸 8.4kg)	リン酸	3kg	0kg	0kg
	カ リ	14.4kg	0kg		(カ リ 14.4kg)	カ リ	0kg	0kg	0kg

※ 牛糞堆肥の有効成分量を窒素 1.7kg/t、リン酸 2.8kg/t、カリ 4.8kg/t と仮定した場合。

注) 条間 70～80cm 条播、または点播の場合とする。

4) 施肥設計上の要点

- (1) 施肥前の土壌診断に基づいて施肥設計を行うことが望ましい。
- (2) 土壌 pH 6.5 以下では土壌改良材（石灰類）で矯正する。
- (3) 1 回目の追肥は 10 葉期までに施し、多回刈りの場合は刈取毎に、生育状況・葉色を見ながら施用する。
- (4) 家畜尿には 1 t 中に牛尿で 4～6 kg、豚尿では 2～4 kg 程度のアンモニア態窒素が含まれる。家畜尿を追肥として利用する場合は、施用量が少なくなるため、5 倍程度に希釈して施用すると良い。

6. 夏作牧草 [\[目次に戻る\]](#)

1) 草 種 ローズグラス

2) 目標収量 6,000kg

3) 施肥量

(10 a)

栽培型	総 量			元 肥			追肥1	追肥2	追肥3
	堆 肥 等		化学肥料等 (成分)	牛 糞 堆 肥 等		化学肥料等 (成分)	10葉期 (成分)	刈取後 (成分)	刈取後 (成分)
	(成分)			(散布量)	(有効成分量)				
貯蔵用	窒 素	5.1kg	19kg	3,000kg	(窒素5.1kg)	窒 素	10kg	3kg	3kg
	リン酸	8.4kg	1kg		(リン酸8.4kg)	リン酸	1kg	0kg	0kg
	カ リ	14.4kg	0kg		(カリ14.4kg)	カ リ	0kg	0kg	0kg

※ 牛糞堆肥の有効成分量を窒素 1.7kg/t、リン酸 2.8kg/t、カリ 4.8kg/t と仮定した場合。

4) 施肥設計上の要点

- (1) 施肥前の土壌診断に基づいて施肥設計を行うことが望ましい。
- (2) 堆肥施用は、カリおよび硝酸塩の蓄積と密接な関係があるので十分注意する。
- (3) 追肥は刈取毎に、生育状況・葉色を見ながら施用する。
- (4) 家畜尿には1 t 中に牛尿で4～6 kg、豚尿では2～4 kg 程度のアンモニア態窒素が含まれる。家畜尿を追肥として利用する場合は、施用量が少なくなるため、5 倍程度に希釈して施用すると良い。

7. 多年生牧草 [\[目次に戻る\]](#)

- 1) 草 種 (高冷地) ペレニアルライグラス、シロクローバー、アカクローバー
(低 地) バヒアグラス、シロクローバー、センチピートグラス、カーペットグラス

2) 施肥量

(10 a)

栽培型	総 量			元 肥				追肥1	追肥2	追肥3	追肥4
	堆 肥 等 (成分)		化学肥料等 (成分)	牛 糞 堆 肥 等		化学肥料等 (成分)		10葉期 (成分)	刈取後 (成分)	刈取後 (成分)	刈取後 (成分)
				(散布量)	(有効成分量)						
採草型	窒 素	5.1kg	20kg	3,000kg	(窒 素 5.1kg)	窒 素	8kg	3kg	3kg	3kg	3kg
	リン酸	8.4kg	7kg		(リ ン 酸 8.4kg)	リン酸	7kg	0kg	0kg	0kg	0kg
	カ リ	14.4kg	5kg		(カ リ 14.4kg)	カ リ	5kg	0kg	0kg	0kg	0kg

※ 牛糞堆肥の有効成分量を窒素 1.7kg/t、リン酸 2.8kg/t、カリ 4.8kg/t と仮定した場合。

3) 施肥設計上の要点

- (1) 造成時には、土壌改良および地力維持の目的で、苦土石灰 400～500kg、熔燐 60kg 内外を施用する。2 年目以降は苦土石灰を 100kg、堆肥 2,000kg 内外を毎年施用し、堆肥 1 t ごとに窒素 1 kg、リン酸 2 kg、カリ 3 kg ずつ減肥する。
- (2) 家畜尿には1 t 中に牛尿で4～6 kg、豚尿では2～4 kg 程度のアンモニア態窒素が含まれる。家畜尿を追肥として利用する場合は、施用量が少なくなるため、5 倍程度に希釈して施用すると良い。
- (3) 造成初年度の元肥は、播種時に施すこととし、2 年目以降の元肥は春の萌芽前に、三要素を含む肥料を施す。

また、刈取毎に追肥を施し、2 年目以降の追肥の窒素とカリは、ほぼ同量の分施とする。

- (4) マメ科優占の草地では窒素を減じ、イネ科優占の草地では窒素を増肥する。